



（第二十八号）

（四角）

第一卷	第二卷	第三卷	第四卷	第五卷	第六卷	第七卷	第八卷	第九卷	第十卷	第十一卷	第十二卷	第十三卷	第十四卷	第十五卷	第十六卷	第十七卷	第十八卷	第十九卷	第二十卷	第二十一卷	第二十二卷	第二十三卷	第二十四卷	第二十五卷	第二十六卷	第二十七卷	第二十八卷	第二十九卷	第三十卷
...

全譯定本 三明締切 内容見本 呈進

世界文學全集

豫約募集

吾々は、日本人であると共に世界人である。その世界人としての資格を全うせしめる教化機関は翻譯文學の外にない。翻譯文學が西洋料理と一緒に消化し難いものと思はれてゐたのは明治の昔の事で、昭和の今日では、洋食も翻譯も餘りに必要な日常糧食だ。紅葉・露伴を讀まない者があつても、ジャンバルジャンを知らない者は子供の中にもゐない筈だ。その貴重な糧食に從來の如き不廉な價を課する事は、國民生活の一脅威だ。小社茲に本全集を刊行し、譯稿一千三百枚のものを壹圓で提供する。英のエヴェリマン叢書と量も定價もほぼ同一だ。が、いくら廉價でも、内容が粗悪では全國的消化不良を招がざるを得ない。即ち絶對の良質品を斷然たる廉價に——これを本全集のスローガンとする。

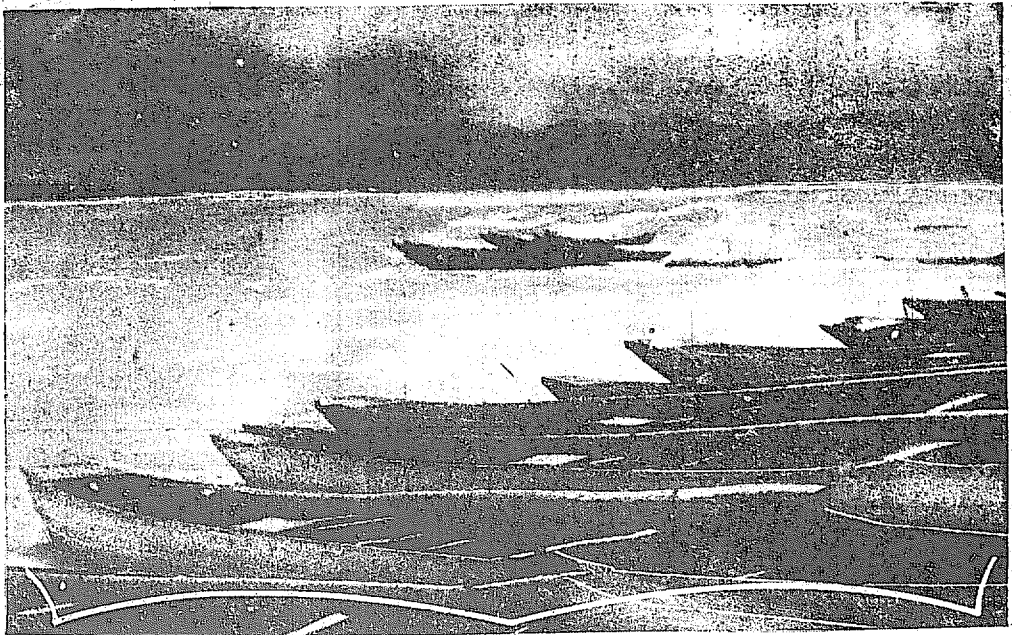
一冊壹圓 上製五百頁

第一卷 神曲 (ダンテ) 生田長江譯	第二卷 デカメロン (ボッカチオ) 森田草平譯	第三卷 シェクスピア集 (シェクスピア) 横山有策譯	第四卷 ドン・キホーテ (セルバンテス) 片上伸譯	第五卷 失樂園 (ミルトン) 繁野天來譯	第六卷 人間嫌ひ (オラアス) 山内義雄譯	第七卷 アイヴンホウ (スコット) 日高一譯	第八卷 懺悔 (ルソオ) 大杉榮譯	第九卷 フアウスト (ゲーテ) 秦豊吉譯	第十卷 群盜 (ユルヘルム・テール) 秦豊吉譯	第十一卷 猫 (文) 谷崎清二譯	第十二卷 レ・ミゼラブル (ユトゴ) 豊崎與志雄譯	第十三卷 モント・クリスト (バルザック) 山内義雄譯	第十四卷 絶對の探求 (グランド) 椎名其二譯	第十五卷 都物 (テイクネス) 柳田泉譯	第十六卷 酒屋 (ラモル) 幹譯	第十七卷 ボワリイ夫 (フロオベル) 中村星湖譯	第十八卷 父と子 (モオパッサン) 廣津和郎譯	第十九卷 地獄 (ツルゲエフ) 米川正夫譯	第二十卷 罰 (ドストエフスキ) 山内封介譯	第二十一卷 活 (トルストイ) 昇曙夢譯	第二十二卷 夜 (ホフマン) 秋庭俊彦譯	第二十三卷 クオ・ワデー (ゴッリキ) 原久一郎譯	第二十四卷 イブセン集 (イブセン) 楠山正雄譯	第二十五卷 アルネ (ハムスン) 生田春月譯	第二十六卷 痴人の告白 (ストリンドベルグ) 三井光彌譯	第二十七卷 死 (ス) (ハアデ) 宮嶋新三郎譯	第二十八卷 織 (匠) (ハアデ) 宮嶋新三郎譯	第二十九卷 恋愛 (アナトール) (シニツワ) 秦豊吉譯	第三十卷 地獄 (バルビュス) 井上勇譯	第三十一卷 聖ジョン (カリス) 市川又彦譯	第三十二卷 西の人 (シニツワ) 松村みづ子譯	第三十三卷 シラノ・ド・ベルジュ (ロスタ) 辰野隆譯	第三十四卷 狼 (ローラン) 小川泰一譯	第三十五卷 代戲曲集 (ロスタ) 辰野隆譯	第三十六卷 代短篇集 (ロスタ) 辰野隆譯	第三十七卷 代詩人集 (ロスタ) 辰野隆譯	第三十八卷 代詩人集 (ロスタ) 辰野隆譯	第三十九卷 代詩人集 (ロスタ) 辰野隆譯	第四十卷 代詩人集 (ロスタ) 辰野隆譯
--------------------	-------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------	-----------------------	------------------------	-------------------	----------------------	-------------------------	------------------	---------------------------	-----------------------------	-------------------------	----------------------	------------------	--------------------------	-------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	---------------------------	--------------------------	------------------------	------------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------------	----------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------

新潮社 振替東京 二三四五

[illegible]

とざされた船路 西氷庫でうつつ



雪崩に乗り上げ 死傷五名を出す

信越線に事故頻出

一名惨死

北陸線再び不通

【金沢電】七日午後八時四十分、北陸線金沢至小坂間、大雪のため不通となり、死者一名、重傷者一名、軽傷者三名を出した。また、信越線金沢至小坂間も大雪のため不通となり、死者一名、重傷者一名、軽傷者三名を出した。

各刑務所の恩命に浴した人

清津

一名壓死

積雪で工場倒壊

【新潟電】七日午後八時、新潟県新潟市、大雪のため、積雪で工場倒壊し、死者一名、重傷者一名、軽傷者三名を出した。

御大葬の御儀を

居ながらに拜観

遙拜式

晋州神社の

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、晋州神社で、御大葬の御儀を、遙拜式で執り行った。

朝鮮人、大挙して

派出所を襲ふ

巡査を袋叩きに

引致者を拉致す

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、朝鮮人、大挙して派出所を襲ひ、巡査を袋叩きに引致し、引致者を拉致した。

城津の大火

朝日町の目撃場所

全焼四戸半焼十戸

民衆の被害甚大

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、城津の大火、朝日町の目撃場所、全焼四戸、半焼十戸、民衆の被害甚大。

民衆の被害甚大

撤去して歩く

警察文通附記して

警視廳で犯人捜査

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、民衆の被害甚大、撤去して歩く、警察文通附記して、警視廳で犯人捜査。

よね子夫人が

草平氏に絶縁状

同棲十六年の妻が

遂に破綻の日来る

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、よね子夫人が、草平氏に絶縁状、同棲十六年の妻が、遂に破綻の日来る。

排日の本場で

名判官の裁決

二宮夫人殺しに

死刑を執行する

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、排日の本場で、名判官の裁決、二宮夫人殺しに、死刑を執行する。

電車で落つ

名判官の裁決

二宮夫人殺しに

死刑を執行する

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、電車で落つ、名判官の裁決、二宮夫人殺しに、死刑を執行する。

若い女をだ

中庭の目撃場所

機銃を撃つ

飛行機で

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、若い女をだ、中庭の目撃場所、機銃を撃つ、飛行機で。

漢學講義

専門部

専修大学

第一學年

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、漢學講義、専門部、専修大学、第一學年。

漢學講義

専門部

専修大学

第一學年

【大分電】七日午後八時、大分県大分市、漢學講義、専門部、専修大学、第一學年。

萬里長城
金之川

場内にすゝり泣きの聲聞え
聖上御誄を奏さる

御大喪儀に参列して
齋藤總督謹誌

【東京電報】本日御一新館に参列し、國府の更に新なるものがある。幸にして此作は天皇の御召名として十萬圓の版税となるが、海峽のごとくはなりなく、國內の紙料も減つたこととはまたご同様の主義、天に通じてものである。朝においてでも貴族とも、齊に遊びて進歩したること、信する者高く兄弟間の便へため次第である。

記者野村鐵に船安から通牒よりせられ、て御金先を萬圓奉りせられたること、更に之に御禮金に際して天皇陛下には特赦、大赦、特許、假赦、假賞による御説はより更に御説植竹金の御下賜すること厚き恩恵が御殿の隅々にまでおぼけられたことはたゞ臨海に堪へぬ次第である。

の提議に對する
各方面の綜合意見

支那の改訂案提出要求

「北支七日發書」日本側は北府上にて推挙し、百安施薩提議大綱の形に之を詳細なる側の改訂基礎案を提示されたを要求する云々。

支那の改訂案提出要求

「北支七日發書」日本側は北府上にて推挙し、百安施薩提議大綱の形に之を詳細なる側の改訂基礎案を提示されたを要求する云々。

諸角を以て之を

北清通商 北京政府は天津に於ける
海軍の増強を要するに於ては
海軍の増強は第一海軍外務省の意見
を採らねばならぬと云ふべきであ
る。従つて天津に於ける海軍の増
強は天津に於ける海軍の増強に
依るべきであらう。

御發引の御義

[illegible]

哀しき御行列

國務大臣代表
「閣下は、國務大臣代表として語る」

財部海相謹話
「大過なく任を果し、今浮ぶはたゞく悲しき御みである」

△△△△△
倉富樫の部長
△△△△△
倉富樫の部長

[illegible]

る言葉もない

朝鮮貴族の代表者
高森敬伯の話

赤坂離宮の天皇陛下

「天皇陛下に召せられては七日後更にお慰問の儀を蒙られ、御病には早くも御回復にむせられて癒かなる多麼に御慰命を聞か召し午後二時五分宮門假殿に上られた上、大略に皇太后陛下と御懸成の儀四時漸

密削の鐵鉋外には天皇陛下
下御名に傍田宮皇子内親王
懿太后陛下出御あらせられ

[illegible]

床次本意細裁

お痛はしき限り
北白川宮妃殿下の御奉送

式部卿の儀に参拜し、大隈卿を許んで語り下には此の奥容に外套す玄宮の高祿に十數分埋掩を誦みとり遊され

朝歸座した後藤卿は、私は明治天皇の御致しましたので今令上の御大難儀に容諒でありました。閣下は武官が

御心づきの御後さけに於けるこゝろ、先づ巴里に於ける富麗な宮殿はせられた北川宮加賀主が本自山の御身を飾ひ、とりもな國邊富城御遊引以來此の山まへをめぐりてと豪逸あらせられた心事は常に御いたはし拜せ

死の哀愁の念深深
も昔思ふの壁
花びら散るの御舞臺
天竺の場合待得
抱かすは足ぐく
生長遊ばれ各随便
てある様目の

後藤新平子

附加税の實施
尙お先眞つ暗

上海市を除外

米國務長官の閣

於て米國は上海を以て
 によつて世界最良の港
 となし、同時に
 ける財源に對する
 たりしる處に協定
 を提呈し、此の提議
 那館に於ても賛成

を後に
平を
續行されるれば
當り者の一員たる

[illegible]

事務用 手工用 家庭用

不易糊

日本卓上糊丸瓶
不易糊工業株式會社
全國各金庫店指定代理



カネミヤ金銀器



御店の體裁、帳場内の整頓、賣上の増進、それには附著誤算、無誤勘定を期し正確と公平を第一、番手數計、簿記、正誤、に防に効を奏する、特價

AB 金銀器、特價、AB 金銀器、特價、AB 金銀器、特價

肝油

海養強壯

眼鏡肝油

伊藤千太郎商店

健脾丸

正本家求我堂 昭和一上田廣吉

七草のひよこ

効能で賣れる

月經

劑經流殊特

な悪人になつてしまつたのです。この時、
「死んででもくれたらよかつたの
に」と後はすう泣いてゐた。

●**印王米内日記**

時鐘を鳴へられた鐘収が、彼は
反則に多いのでないかとの薄想
もあり休中三十七四二十三回
を鳴へられ聊か鬱合みの成行を呈
録米見當を鳴へられ葉菜も二

●**白川** 別荘の如く敷地休
けは寧ろ買はれんかの振合に
人も至強く定期は三十二圓七

<p>悼奉 北田榮太郎 安東縣</p>	<p>悼奉 東島鐵工所 新羽州</p>	<p>悼奉 新義州電氣 株式會社</p>
-----------------------------	-----------------------------	------------------------------

<p>入院隨意 所請無誤 新設</p>	<p>粳摺に 精米に シリンダー なごせならの作費用原動機として</p>
-----------------------------	--


石龍師見

親切だ、町議だ
評判以下、不思議に
あてると皆様大高評の
石龍若先生特別鑑定に

又又日のべ
来る十日まで
悪の客一人も来し

水夕

石油發動機



相

公卿大夫士庶各有所司
分門別類以辨其職也
石龍觀相所
電話二五七一號
地址：市內一丁目

最高第一位入選 フカタロウ御呈上△
農林省大臣受任

日本及南洋各島國
海軍省御用匠人
初代甲種
久保田鐵工所製造
忽那番古機城部

[illegible]

八陸陸町 電話三二五九
津城 電話三二五九
 日本通信社（東京）
 電話本局八九四番

群山出張所
 電話長一〇五〇番
 不羅南門町一丁目
 電話長二七五番

品質本位 信用第一 大量生産 廉賣主義

黃州蘋果元祖 合資會社 黃州果樹園
 一手特約店 京城 三越呉服店
 黃州驛立賣リ林檎は本園産なり是非御買上を乞ふ

高純ビスケットの
品質をおためし下
コレクシヨン
コンダロト
品京東
株策製洋

ニ
ジャ
レ
ア
ン
ド
ト
社

守妙を急いで服む必要の時
 ぞつと寒氣を感じた時
 急に發熱した時
 足腰の冷たを感じた時
 頭痛日暈逆上する時
 嘔咳の出る時
 婦人冷え込から起る諸病
 寒風邪にて水氣液出る時
 何そなく感冒心地する時

一	日	分	十八	錢
三	日	分	四十五	錢
七	日	分	一	圓
十五	日	分	二	圓

定價
 本店 東京市下谷區池之端仲町
 寶丹本舖 守田治兵衛
 支店 振替東京 二九八五番
 大阪市東區平野町一丁目
 振替大阪五七七三九番

〇全國到る所の藥店にあり

